

新地域おこし協力隊員

森音広夢さん

8月1日(土)、新たな地域おこし協力隊として、森音広夢さんが着任しました。

京都府で生まれた森音さんは、幼少期を海外で過ごし、帰国後、学業と並行して起業。現在はジャーナリスト、デザイナーとして京都・東京・札幌など数多くの場所で活躍しています。伝統工芸家としての一面もち、からくり人形などの作品を国内外の展示会へ出展しています。

森音さんは「国内外へ広川町の魅力を発信していきたい」と話しており、今後、これまで培ったノウハウや人脈を活かし、町内の農産物をつかった商品開発や、SNSでの情報発信などに取り組む予定です。



【すでに着任している地域おこし協力隊3名】



綿貫 亜希

地域おこし協力隊 (2020.2~)

岩手県生まれ千葉県育ち。アメリカ、フィンランドでの居住経験を経てフランスの工業デザイン学校で織物とデザインを学びました。その後パリでフリーランスデザイナーとして活動をしていましたが、日本のテキスタイル産地の動きがずっと気になっており、久留米絨の生産をする広川町を知り移り住みました。趣味はダンスとお茶です。



井上 涼

地域おこし協力隊 (2020.01~)

広川町生まれ。生粋のサッカー小僧(歴20年)。地域おこし協力隊として初のUターンです。高校生まで広川町で過ごし、その後は大阪、東京、イギリスやアメリカでの生活経験があります。固定観念やしがらみの強い田舎での自己実現を目指し、「自分の意志で人生選択のできる人を増やすこと」を目標に、中高生向けのキャリア教育をメインテーマに取り組んでいます。転んでも転んでも自転車に乗り続ける赤ちゃんのようなおじさんになることが目標です。九州ビギナーの視点で書き綴ります。



富永 絵美

地域おこし協力隊 (2019.10~)

福岡県久留米市出身。大学院で日本近代文学を学んだ後、博物館、男女共同参画センターなどでの勤務を経て広川町へ。100年前の織り機から生まれる久留米絨、水の豊かな水路、逆瀬の石堀、四季折々の果物、そしてホスピタリティあふれる人たちといった広川町の魅力を、情報発信やイベントを通してたくさんの人に伝えていきたい。小さな波が連なっていつしか大きな変化が起こることを期待しつつ。